夢童（ゆめわらわ）

98.11.12

一個のバレーボール

菅波　茂

1996年秋、旧ザイールにあるルワンダ難民キャンプに派遣していた看護婦が一時帰国した。彼女は医薬品の補充に加えてバレーボールを送ることの大切さを訴えた。1個のバレーボールが難民キャンプの人間関係を劇的に変えているという報告であった。

通常、難民キャンプの難民たちは最低必要な食物と医療は確保されているが、目標を喪失しており無気力である。ところがバレーボールの対抗試合が難民同士の人間関係を活性化させ、生き生きとしたまなざしがよみがえってきた、との報告であった。

97年12月。ルワンダの首都キガリから車で2時間の中学校でこの報告の真実を体験した。私たち日本人チームと中学校のチームとで試合をした。選手そして観客はお互いに殺し合って来た人たちが混ざり合っていた。ところが彼らが得点を挙げるたびにすごい興奮の渦が沸き起こった。試合は選手と観客に感動の共有をもたらしていた。私たちに対して彼らは完全に一体化していた。報告通りであった。

医療は不安を取り除けるが何百人もの人たちを一体化させる感動をもたらすことはできなかった。スポーツの効果は絶大である。これ以後、医療とスポーツの組み合わせは私の願望となった。

98年10月10日。岡山の世界に誇るマラソン選手、有森裕子さんを代表とするスポーツNGO（非政府組織）である「HEARTS OF GOLD（心の金メダル）」が発足した。日本で最初のスポーツNGOである。有森さんがカンボジアの世界遺産であるアンコールワットを背景にしたハーフマラソンに参加したとき、地雷で足を失った子供たちを見て「足があり走れる私たちこそ何かをしなければいけない」という思いが設立のきっかけである。

私は有森さんのこの思いを秘めたスポーツNGOと一緒に活動できることが本当にうれしい。AMDAにこの貴重な機会を作っていただいた関係者の方々にお礼を申し上げるとともに、スポーツNGOのますますの発展を心からお祈りしたい。

（アジア医師連絡協議会代表、題字は筆者）